



特定非営利活動法人 ライフ・アンド・エンディングセンター

— 2012. 10 —

LECだより



No.46



発行：ライフ・アンド・エンディングセンター
〒338-0001
さいたま市中央区上落合1-9-1-403
TEL 048-856-5673
FAX 048-855-1006



皆さまいかがお過ごしですか

長い暑さの日々が去って、爽やかな涼ぎよい季節を迎えました。気象も世情も荒々しい空気を含んで、心がざわつくことの多いこの頃ですが、皆さまにはいかがお過ごしですか。LECは今年12月に設立から13年になります。10年一昔と言いますが、皆さまと共に社会活動に取り組むことが出来たこの12年間は、LECに大きな経験と収穫とをもたらしました。これもみな会員の皆さま、スタッフ、それから私たちを取り囲む社会の方々の力を借りてNPO活動を継続することが出来たお陰です。

8月1日からは新年度を迎えました。気持ちを引き締めて事業に取り組みたいと思います。

平成24年度通常社員総会

先頃お知らせしたとおり、認定NPO法人格取得に向かって、先期末から、これまでの会員組織を改め正会員、支援会員としました。現在、正会員は25名、支援会員78名となっています。

正会員総数25名、総会への出席14名、書面表決11名によって総会開催の定足数を満たしました。

1号議案 23年度事業報告、
2号議案 同決算報告並びに監査報告、
3号議案 平成24年度事業計画、
4号議案 同収支予算計画、
5号議案 平成25年度事業計画並びに収支予算計画（認定NPO法人格取得関連）が審議されいずれも満場一致で議決されました。

今年度は、前年度までの正会員・準会員併せて139名から会員数が大幅に減少してい

ます。

これは、認定NPOの条件「年間3,000円を無条件で寄附される方100名を2年間で延べ200名を要する」を満たすために、これまでの正会員、準会員の皆さんに新しい「支援会員」への移行をお願いした結果です。

今期の終わる25年7月までには少なくとも100名を超える支援会員のご参加を得なくてはなりません。前述したとおり「パブリックサポートテスト」は2年間のうちに延べ200名の支援者を求めています。支援者が200名を超えると、2年の期間を繰り上げて認定を受けることが出来ることになっています。

少しでも早く支援者を増やすことが出来ますよう、皆さん方のご協力を切望致します。

ノーベル賞の山中伸弥先生走る

ノーベル生理学・医学賞受賞が決まった山中伸弥京都大学iPS細胞研究所所長は、今年3月京都マラソンに出場し「完走するので寄附を」とジャスト・ギビング・ジャパンを通じて寄附を募られました。同研究所の運営を支える国の研究費の多くは期限付きだといいます。山中さんは「iPS細胞の研究は10年20年単位で続ける必要がある。その間、優秀な人材を長期間雇うにはどうすればいいか。マラソンでの資金集めが長期雇用に少しでも役立てば」と話されたという。

「JasatGivingJapan」あるいは「山中伸弥」をネットで検索してみませんか。

金沢で『もしもノート』の講演会

9月19日夕刻に金沢市のニューグランドホテルを会場に「20歳から100歳までの生きるための危機管理」—もしもノートの活用法—と題する講演をしました。

内容は私たちNPOの成果物『もしもノート』を題材に終末期と終末期医療、遺言と相続、尊厳死、葬儀やお墓など、いわば「終活」のことです。

この催しは、ジブラルタ生命保険（株）と地元の宮下印刷（株）によって開かれたもので、参会者80名余、関係者を入れると100名ほどの方が熱心に耳を傾けてくださいました。

宮下印刷（株）は『もしもノート』の出版元で、ノートの販売面にも力を入れて各方面に働きかけて頂いている会社です。

『もしもノート』は8年前に初版が世に出ましたが、いまなお人びとに迎えられ利用され続けています。それによって私たちの団体は知名度が上がり、運営に大いに役だっています。また、新聞、TVなど各方面の注目も受けています。例えば先頃（社）共同通信の取材を受けましたが、全国各地の地方紙で紹介され、7月には福井県の方が上京のついでと言って掲載誌を届けて下さいました。このように温かいご支援に励まされ、これからも自主事業「大往生の勉強会」をはじめとする、各地での講座を機会にノートの輪を広げ、「自己管理」は「危機管理」につながることを伝えてゆきたいと思います。

「折角の金沢へおいでたので」と宮下会長のご案内で、新鮮な魚介と地元野菜の昼食をしに卯辰山にある山麓海鮮「松魚亭」に足を運びまし

た。生憎の曇り空でしたが、眼下に広がる街々を見晴らして舌鼓を打ちました。翌20日は好天に恵まれ、能登半島の朝市などに足を延ばし清冽な空気と久々の開放感に浸り、ひとときの旅気分を味わいました。

須齋美智子



金沢ひがし茶屋

毎朝歌った校歌

3.11の大震災以来話題になっている校歌があります。生きてゆくための智恵がしっかり詰まった素晴らしい校歌です。

避難所にもなった小学校で、毎朝みんなでこの校歌を歌っていたそうです。この素晴らしい校歌に励まされ「しっかり生きる！！」と、決意を新たに暮らしの立て直しに立ち向かわれたのでしょうか。

「ひよっこりひょうたん島」の作者コンビの作詩・作曲「岩手県釜石市の釜石小学校校歌」を以下にご紹介致します。

釜石小学校校歌

【作詞】井上 ひさし

【作曲】宇野 誠一郎

いきいき生きる いきいき生きる
ひとりで立って まっすぐ生きる
困ったときは 目をあげて
星を目当てに まっすぐ生きる
息あるうちは いきいき生きる

はっきり話す はっきり話す
びくびくせずに はっきり話す
困ったときは あわてずに
人間について よく考える
考えたなら はっきり話す

しっかりつかむ しっかりつかむ
まことの知恵を しっかりつかむ
困ったときは 手を出して
ともだちの手を しっかりつかむ
手と手をつないで しっかり生きる



理事さんご紹介

毎号理事さんに自己紹介

・ご意見発表していただきます。

「もしもノート」を書く



LEC会員 酒井喜照

「もしもノート」の著者、須齋理事長から「もしもノート」は2年に一度書き換え見直しをすると良いとのお話がありましたが、横着と忙しさ?に紛れて久しぶりに2008年1月に書いた「もしもノート」を見たのは今年8月のことです、既に4年8ヶ月も経っていました。早速、項目順に「ノートに記入する前に」から書き進めましたが「私が入会している団体クラブ同窓会など」では記入内容が記入時とは明らかに変わっておりました。当時は私も未だ72歳で体力に不安もありませんでしたから、地元ゴルフ同好会や筆ペン愛好クラブの役員をはじめ、健康麻雀クラブ、歩こう会、老人大学クラブの会員など、様々な活動に参加していました。

しかし近年、階段の昇り降りにも膝の鈍痛で困難を感じるようになり、各クラブへの参加も減少し「もしも」の時に知らせる人も半減しました。加齢は「もしもノート」の書き込み事項にも表れてくるようです。

次に「私の財産」「私の負債」「保険・年金」と書き進み、「もしも」の時に妻への遺族年金が幾らになるのか分からぬ事に気がつきました。妻にもこれを伝えて一緒に年金事務所に行こうと話したところ、私の死を前提にしたことは聞きたくないとのことなので、近々一人で行って来てノートに結果を記載するつもりです。

「遺言・相続」については莫大な財産もないのに、遺族が世間で見られるようなトラブルになることもないと思いますが、私の死後は全財産を妻が相続し、その後、子二人が妻の財産を相続すれば良いと思っています。「私の介護」

「私の終末期」については、日本人男子の平均健康年齢に丁度達したことだし、余生を過ごしかけて、延命治療は受けないことをノートに記載しておきたいと思います。「葬式・お墓」

「葬式・お墓」では、葬式（通夜）は近親者と私のごく親しい知人に限りたいと思います。また、お墓については現在LECで樹木葬用地を探しておりますので私の死後間に合えば利用するつもりです。

最後にひと言。「もしもノート」は新年早々に気分を新たにして書く事が良いかと思いますが、果たして私には続けることができるやら？

森行政書士事務所

(社会保険労務士事務所併設)



遺産分割協議書作成、遺言書作成支援、
成年後見、その他権利義務書類作成
LEC会員は初回1時間まで相談無料

電話 048-829-8190

さいたま市浦和区常盤1-3-9

ロイヤルプラザ常盤208



LEC葬

LECが仲間のために企画するお葬式

12年前からずっとお引き受けしてきました。
心にしみるお別れ式を心を込めて施行致します。

事前相談が安心です

お申込・お問合せ: 048-855-1238
自宅から・病院から遠慮無くお電話下さい。

お世話になりました

—監事辞任にあたって—

12年ほど前になりますか、須斎理事長からお話があり、LEC役員の末端に関わらせて頂きました。ただ、一役員として何等役に立たず、申しわけなかったことと反省しています。理事長はじめ皆様とのご厚誼が出来たことは、私の人生のなかで貴重な経験となりました。本当に有難うございました。

思い出されるのは、当時、樹木葬への理解はまだでしたが、岩手県の樹木葬ほか、県内外の樹木葬候補地を見て回ったことです。また、「もしもノート」も、まさに国内初の作成であり、その反響は大きなものでした。この世界の開発者であったわけあります。

今般、健康上の理由で役員を辞任させて頂くこととなりました。LECで経験したことを、今後の私の人生に役立てていこうと思います。今後とも一会员として、お付き合い頂ければ有難いと思います。

LECのますますの発展を祈念申し上げ、私のお礼の挨拶とさせて頂きます。

12.10.1 野村 久

お知らせ

辞任理事・中村眞理子氏は一身上の都合により、今総会をもって辞任されました。

3年間、ありがとうございます。

インフォメーション

「もっと つながる 明日のあなた」

①秋の交流イベント

LECも参加しています。

場所：さいたま市市民交流活動サポートセンター・ラウンジ 浦和駅東口駅前コムナーレ9階

展示：10月10日～11月3日

②交流イベント

11月3日（土）10時～15時

LECの活動紹介ブースで遺影写真撮影会を行います。

先着30名：無料です。ぜひ、ご参加ください。

第19回大往生の勉強会



■講 師：西村 美智代

社会福祉法人 サン 理事長
NPO法人 生活介護ネットワーク代表
埼玉県認知症グループホーム・小規模多機能協議会 会長

■日 時：平成24年11月28日（木）午後2時～4時

■場 所：さいたま市立浦和コミュニティセンター
第14集会室

JR浦和駅東口駅前コムナーレ10階

■定 員：72名

■参加費：500円

■主 催：ライフ・アンド・エンディングセンター

■申 込：TEL 048-855-1238

FAX 048-855-1006

Email office@npoiec.org

写真・松尾成美

編集後記

天高くいよいよ秋本番、夏の間参っていた胃袋も、海山の味覚に刺激されて元気を取り戻しつつあります。とはいっても季節の変わり目、皆さまご自愛専一にお過ごし下さい。

総会報告でも理事長から臥してお願いしていますが、支援会員の増強の必要がありますので、皆様方の今一層のご協力を心よりお願い申し上げます。

